

速報

交野ヶ原に巨大北斗七星発見！

か？

柳原輝明

■
一つは妙見山の頂にある三つの巨岩である。以来、これらの石を影向石（ようごいし）として祀ることになったといわれる。』

一昨年交野の磐船神社に行つた折近くの妙見神社にも立ち寄り、拝殿奥のイワクラを見てきた。妙見神社の縁起にいわく、『弘法大師が獅子窟において仏眼尊の秘法を唱えられたところ不思議にも大空から七曜の星が降り、それが三つに分かれて地上に落ちた。その星の降ったところを探してみると、星田の高岡山。光林寺の境内、そして今

その時は、特に疑問も感じずに終わったが、その後、よくよく考えれば北斗七星が降ったという言い伝えがあるのに、なぜ三箇所なのかと大いに疑問を感じようになった。宮崎の谷口

さんの北斗七星の発見をはじめ全国に北斗七星を映していることが伝えられている。この、交野市において、北斗七星についてこれほど明確な伝承があるの

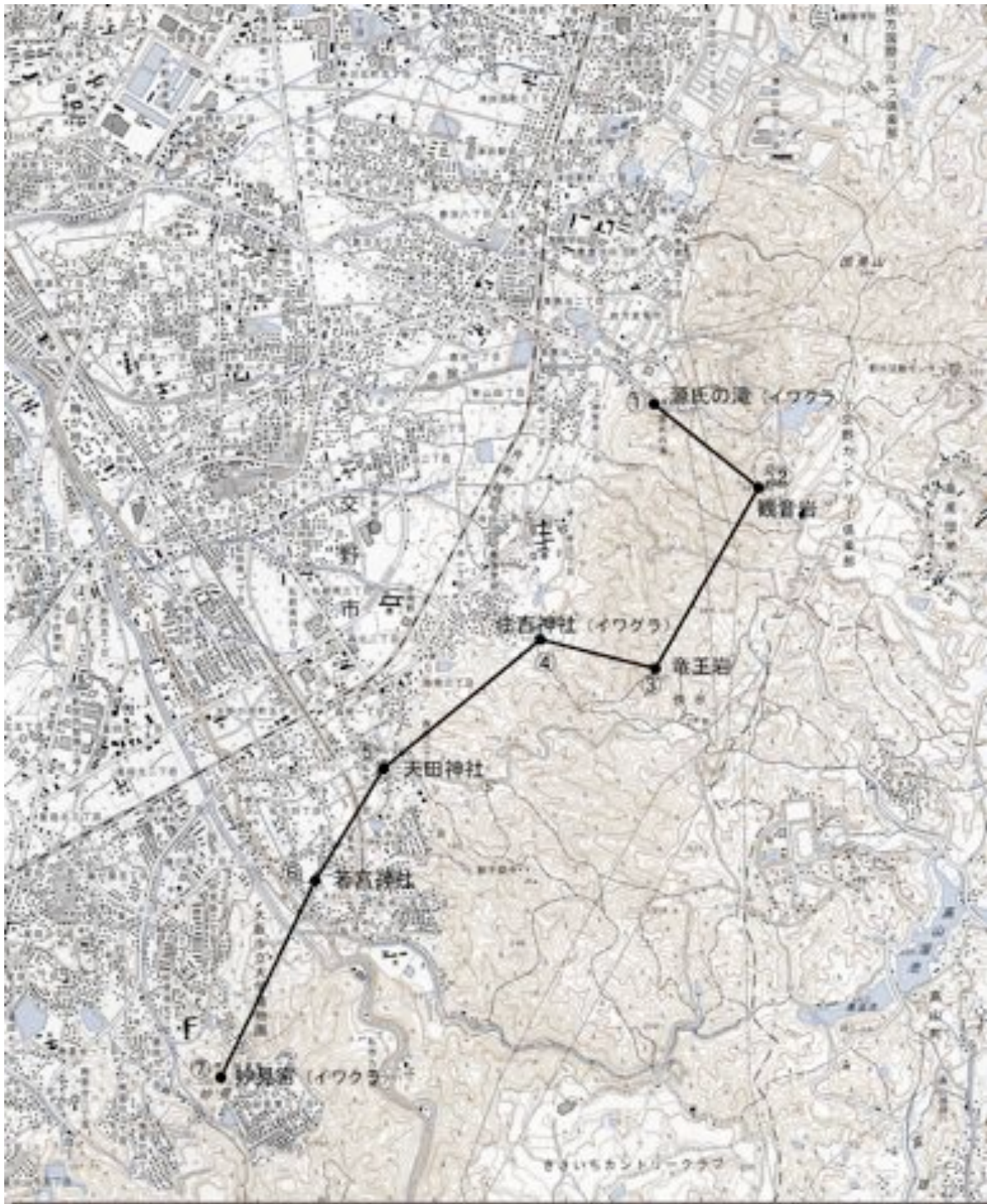
に、その形を落としていないはずが無いと思うようになった。

数週間交野市の地図を眺めているうちに次ページ図のような北斗七星の姿が浮かび上がった。まだ、十分に検証していかない段階であるが、速報として皆さんにご紹介する次第です。

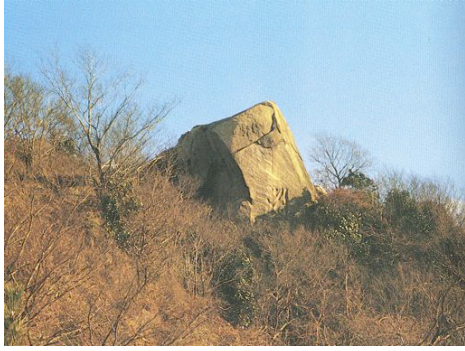
この速報を機に、会員の皆さんによる検証がなされることを期待したいと思います。

まずは、その位置から紹介しよう。
北から順に

- ① 源氏の滝近くの巨石
 - ② 交野山頂上の観音岩
 - ③ 竜王山山頂の竜王岩
 - ④ 住吉神社横の小山頂上の岩
 - ⑤ 天田神社
 - ⑥ 若宮神社
 - ⑦ 妙見宮 影向石
- となっている。



交野ヶ原に浮かぶ北斗七星



② 交野山頂上の観音岩



① 源氏の滝近くの巨石



④ 住吉神社横の小山頂上の岩



③ 竜王山山頂の竜王岩



⑥ 若宮神社



⑤ 天田神社

現地では確かめられたところ、七つのうち五つは巨石の存在が確認できたが、天田神社及び若宮神社の二箇所についてはイワクラが存在しない。若宮については、境内に石が積まれたような場所があり、これがそうかもしれないと思えるが、天田神社については、境内のどこを探してもイワクラは存在していない。天田神社そのものは相当に古い神社



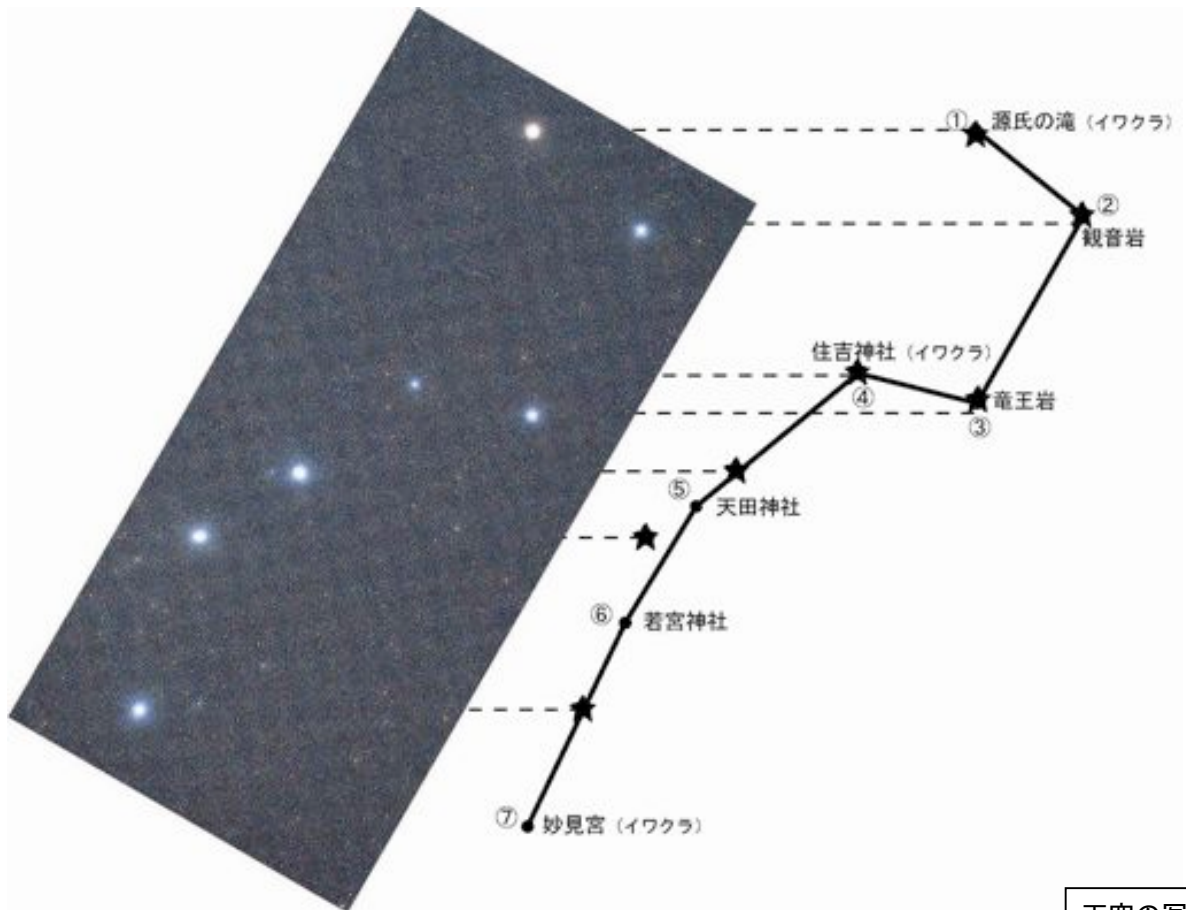
⑦ 妙見宮 影向石

であることはわかっている、古代からの聖地であったことは間違いないと思われる。今までの経験から言うとこのような古社には必ずと言って良いほどご神体がイワクラである場合が多い。長い年月のうちにイワクラが破壊されてしまったのか、あるいはもともと無かったのか、いまま少し時間をかけて探索してみたいと思っている。

ちなみに、天文図で北斗七星の杓の部分の外側の側板を1としたとき底板部は1.6、内側の側板部が0.9となっている。交野ヶ原に浮かぶ北斗七星の杓の部分の比率は外側の側板部を1とした場合底板に相当する部分は1.54、内側の側板は0.89となっており、ほぼその形は天文図と相似であることがわかる。かなり精度の高い測量がなされた上での配置であるように見受けられる。

それに対して、柄杓の柄の部分は天文図の長さを1としたとき交野ヶ原の北斗七星は1.2倍の長さになっていて、杓の部分の正確さに比べその誤差が気になる。すなわち⑤、⑥、⑦の位置が下図のようにそれぞれの星の投影位置に対して少しずつずれているのが判る。この柄の部分の不一致が単なる誤差なのか、あるいは、本来の投影地点に巨石が存在しているのか(まだ現地を確認していない)、今後、更なる調査をおこない明らかにしていきたいと考えている。

何れにせよ、杓の部分の合致の精度の高さからみると交野ヶ原の北斗七星は単なる偶然の産物とは思えない。古代において、かなりの精度で、北斗七星を地上に再現した人がいたことは疑いようが無い。



天空の写真との比較区

★は、星の投影地点。杓の部分の星の位置ほぼ合致、それに対し柄の部分には若干ずれている。